

手術無駄や放置すべきとの主張あるが…

がん早期発見の有効性などを強調した医療関連本が、出版から短期間で4刷の重版になり、話題となっている。著者の医師は、がんには唯一万能の治療法があるわけではなく、年齢や病気の状態、患者の考え

せぜ賢はくはがん

方によって変わる主張。的確な情報収集によって「患者よ、もっと賢くなれ」と訴えている。問題提起した医師は、長尾クリニック(兵庫県尼崎市)の長尾和宏院長(55)。8月下旬に上梓した『医療否定本』に殺されなかったための48の真実(扶桑社) 写真

「がんの早期発見や早期治療はない、がんの手術は多くは無駄、がんはそのまま放置するのがよい」といった主張があり

べきだ」という1つの万能の答えなどないので「

特に早期発見、早期治療の有効性についてはこだわりがある。

「これまでに500は下らない早期がんを、内

視鏡検査や腹部エコーでみつ

つてきた人をみてきました。

多くの経験を通じて、

積み、多くのがん患者さんを見て、早期発見と早期治療はやはり有効だと

自信を持って言えます」

長尾氏は香川県出身。東京医科大学を卒業後、大

阪大第二内科に入局し、市立芦屋病院内科勤務を

経て、1995年に現在のクリニックを開業し

た。年中無休の外來診療、365日24時間体制

の在宅医療に従事。12万部超のベストセラーとな

った『平穩死』10の条

「早期発見・治療がやはり有効」

「医療否定本」に殺されないための48の真実

長尾 和宏

“がん放置療法”で後悔する前に、必ず読んでください。

ベストセラー「平穩死」10の条件の著者が教える
治療をするとき、休むとき、やめるとき

「混合診療」解禁で自分で選ぶ時代に

件(ブクマン社)など著書は多い。がんといえば、食道がんに冒された歌舞伎役者の中村勘三郎さんが記憶に新しい。手術を受け、入院から約4カ月後の昨年12月に57歳でこの世を

今後、日本の医療は大きく変わるとの見方がある。環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)で、保険診療と保険外診療の併用を認める「混合診療」が解禁される可能性があるからだ。「混合診療の解禁によ

去った。「抗がん剤治療も手術も成功していたのですが、その後の肺炎を乗り越えませんでした。手術をやらなければよかった」というのはあくまで結果論。やはり食道がんに冒されながらも、手術を経て復帰したサザンオールスターズの桑田佳祐さんのような例もある



長尾医師

お店でもネットでも安心
コトバンクカメラ

なってもらい、頭から医療を否定せずに「いいところ取り」をしてほしい」病気がじっくり向き合うには、医師との信頼関係が欠かせない。